

向高清水沢(仮称)

1983年5月28日

L

国道399号線より唐沢を下降して摺上川本流へ下る。唐沢は本流へ出る所に20mの階段状の滝をかけているが、この滝は最後の部分が下れず、左岸を捲いて本流に降りたつ。そこから50m程下ると向高清水沢(仮称)の出合である。

向高清水沢(仮称)は出だしからいきなり5m滝が連続している。こんな時はワラジをつける気分も最高である。F6まで次々と滝が現れ、一気に高度をかせぐ。水量が少ないために難易度は初級というところで、あっという間に核心部を終わる。

このあと沢は平凡となって源流に至る。最後に小滝を2つ直登すると、もう尾根は間近であった。

この沢は釣り人もあまり入らないらしく、魚影も濃く、山菜も豊富だった。私の好きなオオルリ、サンコウチョウにも会えた。近くの横枝に止まって、「月日星ホイホイ」と歌っている。パラダイス・フライ・キャッチャーという英名にふさわしいサンコウチョウのオス。しなやかな尾羽根、目の周囲の鮮やかなコバルト。本当に良い山行であった。

(記)

【タイム】 出合(13:45)→沢終了(16:20)

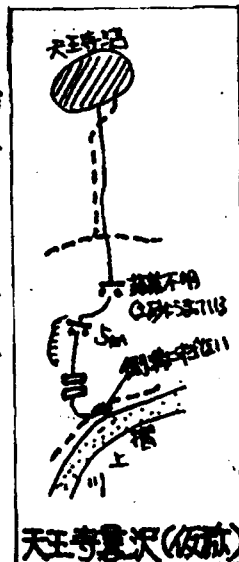
天王寺裏沢(仮称)

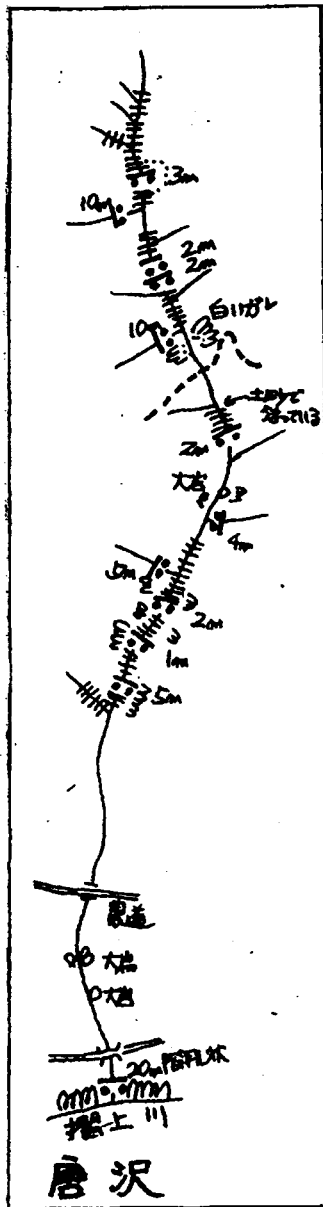
1983年9月18日

天王寺沼から流れ出す小沢は、地図上でははっきりと水線がひかれているのだが、農業用水の取水や、人工的な流路の付け替えにより、現在ではその下半分は殆ど水の流れることはなくなっている。

12:55遡行開始。出だしは道路の側溝にすぎない。そしてその上は、砂防ダムと側面舗装が進められていて、ほとんど人工河川に変わろうとしている。

工事現場を過ぎて樹林帯に入った所で滝が出てきた。5m。水がほとんど流れていないので、ど真中を素々と直登する。その上にも滝があるが、崩れてきた岩石に埋ってしまっていて、落差の程はわからない。





水はその岩床の上をサラサラと流れている。水量は多くないが、サンショウウオなどのいるところを見ると、絶えることのない流れのようである。下流では地下にしみこんで伏流となっているが、ここから先は岩盤が露出しているため、水も表面を流れるようになるのだろう。岸にはギボウシなどの水気のある所を好む植物の姿も見られる。

ナメはずっと続いている。途中にある小滝はフリクションをきかせてすべて直登。みな小さいので、特に問題となるような滝もない。所々崩壊した土砂が沢をうずめた所があり、そこだけはブッシュが通行の妨げとなっていた。14時、もう細い溝状となった沢をあとに樹林帯をつきって上の牧草地をめざす。

沢の途中、白いガレのあるあたりでヒメサユリの花をみかけた。うすいピンクのひっそりとした花は、こうした訪れる人とてない静

かな水辺にこそふさわしい。(

[タイム] 唐沢出合(12:20)→終了(14:00)

